

平成27年度病害虫発生予報第5号

平成27年 8月 3日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への 影響 |
|-----|------------------|---------------|------------|--|------------|
| イネ | いもち病 (穂いもち) | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の葉いもちの発生量は やや多い 穂いもち抵抗性品種の作付けが 多い | ＋ － |
| | 紋枯病 | やや多い | 県全域 | 7月下旬の発生量は多い 8月の降水量は平年並か少ない | ＋ ±～－ |
| | 白葉枯病 | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | もみ枯細菌病 | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量は平年並か少ない | ± ±～－ |
| | ニカメイガ | やや多い | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 予察灯及びフェロモントラップ における誘殺数はやや多い | ± ＋ |
| | セジロウンカ | やや少ない | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は一部を 除きやや少ない | ± － |
| | トビイロウンカ | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の調査では、本田での 発生を認めていない(平年並) | ± |
| | ツマグロヨコバイ | やや少ない | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は一部を 除きやや少ない | ± － |
| | 斑点米カメムシ類 | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 | ± ± |
| | イチモンジセセリ(イネツトムシ) | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の被害株率は平年並 | ± |
| | フタオビコヤガ(イネアオムシ) | 少ない | 県全域 | 7月下旬の被害株率は低い 予察灯における誘殺数はやや少 ない | － － |
| | コブノメイガ | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の被害株率は平年並 | ± |
| ダイズ | ハスモンヨトウ | やや少ない | 県全域 | フェロモントラップにおける誘 殺数はやや少ない | － |
| | オオタバコガ | 平年並 | 県全域 | フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 | ± |

・防除対策

〔イネ・紋枯病〕

病斑が上位葉に伸展する前に、モンカット粒剤、オリブライト250G、モンガリット粒剤などで防除しましょう。

〔イネ・ニカメイガ〕

早植栽培及び普通期栽培では、茎の太い品種で発生が多い傾向があるので留意し、パダン粒剤4、ダントツ粒剤、スタークル/アルバリン粒剤などで防除しましょう。

・留意事項

セジロウンカの発生量は平年並です。ウンカ類の飛来・生息状況については、本日発表の「ウンカ類情報第3号」を参照してください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少なく推移しています。

また、オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並です。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」及び「オオタバコガ情報第1号（ダイズ）」を参照してください。

果樹

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|----------|-------------|---------------|------------|---|-------------|
| ウンシュウミカン | 黒点病 | やや少ない | 県全域 | 5月の枯枝の孢子形成量はやや少ない 8月の降水量は平年並か少ない | － ±～－ |
| | ミカンハダニ | やや少ない | 県全域 | 7月下旬の発生量はやや少ない | － |
| | チャノキイロアザミウマ | 平年並 | 県全域 | 7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数はおおむね平年並 | ± ± |
| ナシ | うどんこ病 | やや少ない | 県全域 | 7月下旬の発生量はやや少ない | － |
| | ハダニ類 | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | ナシヒメシンクイ | 平年並 | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 | ± |
| モモ | せん孔細菌病 | 多い | 県全域 | 7月下旬の発生量は多い 8月の降水量は平年並か少ない | ＋ ±～－ |
| | モモハモグリガ | 少ない | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月下旬の被害葉率は低い | － － |
| カキ | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 7月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | カキノヘタムシガ | 多い | 県全域 | 第1世代幼虫による被害果率は高い | ＋ |
| | コナカイガラムシ類 | やや多い | 県全域 | 7月下旬の発生量はやや多い | ＋ |
| 果樹共通 | カメムシ類 | やや少ない | 県全域 | 予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は少ない 7月下旬のヒノキにおける生息頭数はやや少ない スギ、ヒノキ球果量はやや多い | － － － |

・防除対策

〔モモ・せん孔細菌病〕

台風など風を伴う降雨が予想される場合は、収穫後であればICボルドー412で、収穫までに日数がある品種では、収穫前日数及び他の園への飛散に注意してスターナ水和剤やバリダシン液剤5などで防除しましょう。

〔カキ・カキノヘタムシガ〕

幼虫が果実に食入すると薬液がかかりにくくなるので、芽を食害している時期にモスピラン顆粒水溶剤やフェニックス顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔カキ・コナカイガラムシ類〕

発生量の多いほ場では、サイアノックス水和剤（フジコナカイガラムシ）やコルト顆粒水和剤（フジコナカイガラムシ）などで防除しましょう。なお、コナカイガラムシ類は薬液がかかりにくいヘタ裏部分に主に生息しているので、薬剤散布する場合は、薬液が十分付着するようにしましょう。

・留意事項

ナシ黒星病が多く発生しているほ場があります。次作のため秋期防除の準備をしましょう。

ブドウべと病の発生が多いほ場があります。樹勢を維持し早期落葉を防ぐため、曇雨天が続く場合は防除しましょう。

モモでは、ハダニ類の発生が多いほ場があります。早期落葉を防ぐために収穫後に防除しましょう。

チャノキイロアザミウマの有効積算温度から計算した成虫発生ピーク時期は、前年並と予測します。

野菜

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|------|-----------|---------------|------------|------------------------|--------|
| キャベツ | オオタバコガ | 平年並 | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 | ± |
| | シロイチモジヨトウ | 平年並 | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 | ± |
| 野菜共通 | ハスモンヨトウ | やや少ない | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない | － |

・留意事項

キャベツのハイマダラノメイガは、今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、発生量が多くなると予測します。育苗時には防虫ネットなどを設置して、成虫の侵入を防ぐとともに、粒剤やかん注処理剤などで防除を徹底しましょう。

トマトでは、コナジラミ類の発生が増加する時期です。コナジラミ類が媒介するトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置しましょう。

花き

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|------------|--------|---------------|------------|-----------------------|--------|
| キク (露地) | オオタバコガ | やや多い | 県全域 | フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い | + |
| | ハダニ類 | やや多い | 県全域 | 7月下旬の発生量はやや多い | + |

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

幼虫を確認したら直ちにアファーム乳剤、コテツフロアブルなどで防除しましょう。

〔キク（露地）・ハダニ類〕

マイトコーネフロアブル（ナミハダニ）やピラニカEWなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょう。

・留意事項

アザミウマ類が多発しているほ場があります。発生状況を確認し、発生ほ場では、系統の異なる薬剤でローテーション散布を行いましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月30日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、多い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：30% 高い：60%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：20% 平年並：30% 多い：50%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止